

# 第3回全国障害者スポーツ大会専門委員会 次 第

日時：平成29年3月23日(木) 14:00-16:30

場所：滋賀県大津合同庁舎7階7-B会議室

## 1. 開会

## 2. あいさつ

## 3. 説明・報告事項

- (1) 第16回全国障害者スポーツ大会（希望郷いわて大会）参加者アンケート結果報告
- (2) 子ども・若者参画特別委員会 活動報告

## 4. 審議事項

- (1) 第24回全国障害者スポーツ大会 会場地市町選定基本方針（案）
- (2) 滋賀らしい大会に向けた取組について

## 5. その他

## 6. 閉会

第3回全国障害者スポーツ大会専門委員会 委員名簿

(順不同：敬称略)

選出区分	機関・団体名および役職名	氏名	備考
1	滋賀県体育協会 競技力向上担当次長	今井 義尚	
2	滋賀県障害者スポーツ協会 主査	伊勢坊 美喜	
3	滋賀県障がい者スポーツ指導者協議会 副会長	原 陽一	副委員長
4	スポーツ 関係 パラリンピアン (ロンドンパラリンピックセーリング競技日本代表選手)	西山 克哉	
5	パラリンピアン (リオデジャネイロパラリンピック視覚障害者マラソン女子日本代表選手)	近藤 寛子	
6	車椅子バスケットボール日本代表選手	北田 千尋	
7	スペシャルオリンピックス日本・滋賀 評議員	高木 正二郎	
8	滋賀県社会福祉協議会 法人経営担当課長	奥村 昭	
9	滋賀県身体障害者福祉協会 副会長	藤本 俊治	
10	滋賀県手をつなぐ育成会 理事	小倉 繁昌	
11	滋賀県精神障害者家族連合会 理事	川並 正幸	
12	福祉関係 滋賀県視覚障害者福祉協会 事務局長	平岡 行雄	
13	滋賀県聴覚障害者福祉協会 事務局長	中西 久美子	
14	滋賀県障害者自立支援協議会 事務局長	中島 秀夫	
15	滋賀県立障害者福祉センター 副所長	小野 ゆかり	
16	学校関係 滋賀県立野洲養護学校 校長	重森 恵津子	
17	学識 経験者 立命館大学スポーツ健康科学部 准教授	永浜 明子	委員長
18	びわこ成蹊スポーツ大学 専任講師	河西 正博	
19	県関係 滋賀県健康医療福祉部障害福祉課 課長	市川 忠稔	

## 希望郷いわて大会（第16回全国障害者スポーツ大会） 参加者アンケートの結果概要について

### 1. アンケートの目的

8年後に滋賀県で開催する第24回全国障害者スポーツ大会の準備を進める上での参考とし、大会を成功に導くため、実際に大会に参加した関係者から意見を聴取した。

### 2. 実施時期

平成28年10月14日（金）～10月26日（水）

### 3. 対象者数

54名（回答数54名）

### 4. 項目別評価

#### （1）競技運営について

良い←		→良くない			
5	4	3	2	1	無回答
13人	15人	19人	3人	1人	3人
24%	28%	35%	5%	2%	5%

#### （良かった点）

- ・職員、ボランティアの対応が丁寧であった。
- ・競技別に手話通訳がいたため、進行がスムーズであった。
- ・些細な疑問や競技に関係のないことまで対応してもらえた。

#### （良くなかった点）

- ・競技の待ち時間が多く、且つ長い。
- ・開始時間の設定が遅かった。
- ・光波測定器を導入する等して、審判を減員するべき。
- ・一般入場者の入場拒否があり、遠路応援に来た人が不愉快な思いをされた。
- ・控室が寒かった。

#### （2）競技会場となった施設について

良い←		→良くない			
5	4	3	2	1	無回答
8人	21人	16人	6人	0人	3人
15%	39%	30%	11%	0%	5%

#### （良かった点）

- ・本会場とサブ会場が近かった。
- ・競技場がコンパクトであった。

(良くなかった点)

- ・気温が低く、寒かった。
- ・控えのテントが狭くて通路もなく、使いづらかった。
- ・スタンドを移動する場合、一旦外に出て別の入り口から入らなければならない。
- ・サブトラックと県選手控所が一緒になっており、選手の行き来が危険だった。
- ・車いすでバックスタンドに入れなかった。
- ・競技プールと練習プールを分けるべき。
- ・メインプールと車椅子観客席が離れすぎている。
- ・控室、更衣室が狭かった。

(3) 「おもてなし」について

良い←		→良くない			
5	4	3	2	1	無回答
11人	17人	19人	0人	0人	7人
20%	31%	35%	0%	0%	13%

(良かった点)

- ・あたたかい飲物やカイロを配ってもらった。
- ・地元の特産品等、豊富に提供していた。
- ・地域の物を味わえてよかった。

(良くなかった点)

- ・広場での品数は少なかった。
- ・初日にすでにサイズ等が無い物があった。

(4) 宿舎について

良い←		→良くない			
5	4	3	2	1	無回答
19人	15人	11人	3人	2人	4人
35%	28%	20%	5%	3%	7%

(良かった点)

- ・バイキングで体調に合わせた食事が摂れた。
- ・風呂が大きく、疲れが取れた。

(良くなかった点)

- ・ホテルにベッドがなかった。
- ・バイキング式食事で毎回ほとんど同じメニューであった。
- ・ミーティングルームがあればよかった。
- ・部屋が狭かった。もう少しゆったりとした環境が望ましい。
- ・大会関係者と一般客で階層を別にした方がよい。

### (5) 会場への移動について

良い←

→良くない

5	4	3	2	1	無回答
8人	25人	8人	7人	1人	5人
15%	46%	15%	13%	2%	9%

#### (良かった点)

- ・バスなので不自由なく移動できた。
- ・バスが毎回定時に来てくれてよかった。

#### (良くなかった点)

- ・移動距離、時間が長すぎる。
- ・観光バスは、車椅子の乗降が大変だった。リフト付や低床バスが望ましい。
- ・未舗装の駐車場があり、車椅子での移動に不便があった。

### (6) その他

- ・岩手県の担当の方、ボランティアの方が心をこめて接していた姿は本当に感動した。選手・コーチ一人ひとりにメッセージカードもいただけて、出会って良いものだと感じた。
- ・本部員の方の対応が素晴らしかった。選手の事を考えて、待ち時間が長い時は同乗県と話し合い、バス待機ができるように対応してくれたり、少しでも早くホテルに戻れるよう、同乗県が整い次第、バスを出発させてもらった。
- ・競技会場を早期に指定し、強化拠点を決定してほしい。
- ・普及啓発し、県民の参画（見る・関わる・協力する）の充実を。
- ・観客が少なく、盛り上がりに欠けた。
- ・開会式の日程を前日にした方が良い。開会式当日に競技するのは、コンディション調整がしづらい。
- ・滋賀県での開催の時には、選手団付きスタッフ、サポートボランティアの育成が大切だと思う。
- ・屋内の長水路でメインプールとウォーミングアッププールが別な施設、かつ段差のないフラットなプールは国体の後も重宝される。障害者が使いやすい施設は、万人が使いやすい。
- ・選手が良い結果を残せることを中心とした施設や運営を考えてほしい。
- ・滋賀には無い、50mの室内プールがほしい。

## 子ども・若者参画特別委員会の活動について

### 1. 活動目的

第79回国民体育大会・第24回全国障害者スポーツ大会の開催に向け、将来、両大会に参加する子ども・若者の視点や考えを両大会の開催準備やスポーツ振興等に反映させるため、必要な調査・研究活動を行うことを目的とする。

### 2. 活動内容

両大会の開催準備や県のスポーツ振興等に係る諸課題についての調査活動や意見交換を通して、スポーツを取り巻く環境への理解を深め、自らの意見を表明し、その結果を開催準備委員会に報告する。

- (1) 年9回程度の活動を行う。その内4回程度は体験活動を伴うものとする。
- (2) 最終回では活動報告会を開催する。
- (3) 活動を終えた委員には、以降も県民運動などへの参画や大会サポーターとして関わりを継続してもらうことを期待して「国体・全スポフレンド」に認定し、開催年には国体の総合開会式に招待する予定。

### 3. 委員構成

県内に居住、通学・通勤する小学5年生から大学生世代の子ども・若者を募集。  
今年度（第3期生）は29名。（小学生7名、中学生7名、高校生9名、大学生6名）

### 4. 活動概要

本県では国体と全国障害者スポーツ大会の一体感のある開催を検討しているところであり、今後一層、パラスポーツへの理解・普及が望まれるところである。

そこで、パラスポーツに関わる人々から様々な意見を聴取するとともに、障害のある方とスポーツを通じた交流をすることによって、障害に対する理解を深め、環境改善に対する方策やスポーツの普及策を検討する。

#### 《テーマ：パラスポーツ（障害者のスポーツ）》

1	結団式、仲間づくり活動	びわこ成蹊スポーツ大学	8/26
2	車いすバスケ 体験・取材	県立障害者福祉センター	9/19
3	ゴールボール 体験・取材	守山市民交流センター	11/6
4	水泳記録会 見学・ボランティア	県立障害者福祉センター	11/20
5	ボッチャ 体験・取材	県立野洲養護学校	12/3
6	パラスポーツ公開討論会	県立男女共同参画センター	12/18
7	活動のまとめ	滋賀県庁	1/22
8	活動のまとめ、報告会資料づくり	滋賀県庁	2/11
9	活動報告会、解団式	コラボしが21	3/18

## 第24回全国障害者スポーツ大会 会場地市町選定基本方針（案）

第24回全国障害者スポーツ大会で使用する会場地は、次により選定する。

- 1 全国障害者スポーツ大会開催基準要綱に基づき、原則として第79回国民体育大会の会場を使用するものとする。
- 2 選手等の負担軽減、交通・宿泊施設等の状況を総合的に判断し、宿泊場所と競技会場はできるだけ近接した地域に配置する。
- 3 全国障害者スポーツ大会競技規則その他各競技規則に定める競技の実施に適合する会場とする。
- 4 会場は、原則として既存施設を活用する。

## 会場地市町選定基本方針の関係規程

### ◆全国障害者スポーツ大会開催基準要綱（抄）

（日本障がい者スポーツ協会）

#### 5 大会開催の基本方針

（5） 大会における競技施設は、原則として、国民体育大会本大会の会場を使用する。

### ◆全国障害者スポーツ大会開催規程（抄）

（厚生労働省告示第 385 号 平成 13 年 12 月 18 日 厚生労働大臣 坂口 力）

#### （会 場）

第 6 条 全国障害者スポーツ大会は、原則として、秋季国民体育大会の会場を使用するものとする。

### ◆全国障害者スポーツ大会について（抄）

（平成 26 年 4 月 1 日付け 26 文科ス第 2 号 スポーツ・青少年局長通知）

#### 3 大会の開催

##### （3） 施設

競技会場及び諸施設については、国民体育大会として使用された施設を原則として利用する。



全スポ正式競技と国体競技会場

No.	全スポ正式競技	国体実施	第79回国体会場（内定）		
			施設名	市町	
1	陸上競技	○	(仮称)彦根総合運動公園陸上競技場	彦根市	
2	水泳（競泳のみ）	○	未定	—	
3	アーチェリー	○	愛荘町スポーツセンター秦荘グラウンド	愛荘町	
4	卓球	卓球	○	野洲市総合体育館	野洲市
		サントゥーブルテニス	×	—	—
5	フライングディスク	×	—	—	
6	ボウリング	○	未定	—	
7	バスケットボール	○	新県立体育館	大津市	
			野洲市総合体育館	野洲市	
			野村公園体育館	草津市	
8	車椅子バスケットボール	×	—	—	
9	ソフトボール	○	布引運動公園多目的グラウンド	東近江市	
			今津総合運動公園第2グラウンド	高島市	
			野村公園グラウンド	草津市	
			守山市民運動公園ソフトボール場・市民スポーツ広場	守山市	
10	グラウンドソフトボール	×	—	—	
11	バレーボール	○	草津市立総合体育館	草津市	
			野村公園体育館		
			近江八幡市立運動公園体育館	近江八幡市	
			守山市民体育館	守山市	
12	サッカー	○	布引運動公園陸上競技場	東近江市	
			京ワ株式会社滋賀八日市工場総合グラウンド		
			皇子山総合運動公園陸上競技場	大津市	
			伊香立公園芝生グラウンド		
びわこ成蹊スポーツ大学陸上フィールド	守山市				
野洲川歴史公園サッカー場（ビッグレイク）					
13	フットベースボール	×	—	—	

## 平成31年度以降の全国障害者スポーツ大会 競技規則・解説 改正予定

### ■卓球競技

- ①平成31年度全国障害者スポーツ大会より、卓球競技に新たな参加障害区分（精神障がい）を設けることとする。
- ②現在の大会の個人競技参加選手枠（身体：知的＝1200：1200）は維持しつつ、新たに各県市選手団における精神障がい者の参加枠を2名（男女1名ずつ）設ける。  
この枠は卓球競技についてのみの参加枠とする。  
※67都道府県・指定都市×2名＝134名
- ③競技規則について、現在の全国障害者スポーツ大会競技規則卓球競技（立位）で定める内容の他、特に定める予定はない。

### ■あらたな正式競技の導入（ボッチャ）

- ①平成33年度全国障害者スポーツ大会より、正式競技（個人競技）としてボッチャを導入することとする。
- ②対象障がいは身体障害とする。  
なお、障害区分および競技規則については平成27年度国庫補助事業「重度障がい者スポーツ実態調査研究事業」報告書（公益財団法人日本障がい者スポーツ協会発行）をもとに調整中。
- ③参加申込は下記のとおりとする。
  - ・個人競技だが、各選手団2人1組で参加申込を行う。
  - ・2人の選手の内訳は「立位」と「座位」それぞれ1名とする。

## 会場地選定スケジュール（案）

年度	全国障害者スポーツ大会	国民体育大会
	正式競技	正式競技
H29 7年前	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆競技運営主管団体の決定</li> <li>◆競技運営主管団体意向調査</li> <li>◆競技運営主管団体ヒアリング</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆会場地内定（第三次）</li> <li>◆会場地内定（第四次）案の審議</li> </ul>
H30 6年前	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆関係市町意向調査</li> <li>◆市町との調整</li> <li>◆選定案の審議</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆会場地内定（第四次）</li> <li>◆中央競技団体正規視察</li> </ul>
H31 5年前	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆会場地内定</li> </ul> <p>オープン競技選定に着手</p>	

# 滋賀県らしい大会に向けた具体的な取組やアイデアについて

## 1 スポーツ振興全般

### (1) 障害者のスポーツ参加の促進について

- ①スポーツイベントの企画、開催。
- ②イベントが発展・継続するよう、イベント後のフォローをする。
- ③びわ湖を中心に、ウォーキングやウォークラリーなど誰でも参加できる体験型イベントを県内各地で行い、スポーツ参加を働きかける。
- ④各市町のスポーツ推進委員が関わるスポーツイベントや、地域総合型スポーツクラブの障害者のスポーツ参加事業などに、障害者の参加を促す取組が必要。
- ⑤地域で行われる小規模な文化イベント、スポーツイベント等に障害者スポーツを体験できるようにする。
- ⑥体験型イベントを開催し、発掘・育成に力を入れる。
- ⑦スポーツを始めるきっかけづくりや、余暇活動でのスポーツ拠点づくりが必要。
- ⑧学校在籍時からスポーツに親しむため、学校の先生がクラブ活動に取り組みやすい環境づくりが必要。
- ⑨感性に訴える体験をするには、できる限り低年齢の子どもたちから、意識づける活動をしていくとよい。
- ⑩重度障害者が参加できるスポーツ(ボッチャ・風船バレー)を知ってもらう活動を企画する。
- ⑪重度障害、在宅障害者などができる種目の開発をする。
- ⑫障害者スポーツに関する取組の情報を県民にわかりやすく示していく必要がある。

スポーツの  
普及

- ①選手の発掘イベントを定期的に行う。(年2回など)
- ②団体競技の強化を図るために、養護学校に強化指定校を設置する。または、支援学級所属の団体競技クラブ所属の選手を集め強化クラブをつくる。
- ③パラアスリート発掘イベントなどの魅力的なイベントを実施する。
- ④体験型イベントを開催し、発掘・育成に力を入れる。(再掲)
- ⑤障害者の練習会に各競技の専門家から指導を受けられる機会をつくる。

競技力の  
向上

- ①学校在籍時からスポーツに親しむため、学校の先生がクラブ活動に取り組みやすい環境づくりが必要。(再掲)
- ②スポーツを提供したいスポーツクラブとスポーツしたい障害者のマッチングが必要。
- ③卒業後のスポーツ拠点は、総合型地域スポーツクラブを位置づけ、学校在籍時から生徒と顔なじみになっておくためにも、学校と総合型地域スポーツクラブがタイアップした放課後活動が必要。
- ④道具が無くて取り組めない施設や人たちは多い。いつでも使えるように道具を貸与できるシステムが必要。
- ⑤場所・移動手段・指導者等が整っていないので、特別支援学校のグラウンドや体育館を拠点として、各会場で月2回程度の活動を続けていく。

スポーツ環境  
の整備

(2) 障害者と健常者が一緒に行うスポーツ活動の推進について

- ①障害者理解を呼び掛ける啓発活動にスポーツを取り込む。
- ②健常者と障害者がともにスポーツをすることで障害者理解も進む。
- ③障害者が健常者の中に入って行くのではなく、障害者の中に健常者が入っていくことが普通になるように、誰もが理解や工夫することが当たり前になるような意識改革が必要。

障害者理解の  
促進

- ①各市町のスポーツ推進委員が関わるスポーツイベントや地域総合型スポーツクラブなどに障害者の参加を促す取組が必要。
- ②健常者の陸上記録会に障害者の部門を追加する。
- ③国体選手と全スポ選手の合同練習の機会を設ける。
- ④障害者が健常者に混ざって一緒に練習会をすることで、相互に刺激を受け合い技術も含めたレベルアップを図る。
- ⑤障害者と高齢者とがふれあい、一緒にスポーツ活動ができるとよい。
- ⑥障害者も健常者も双方が「楽しい」と思える仕掛けが必要。
- ⑦風船バレーは重度障害者から健常者まで誰でも楽しむことができるスポーツなので、風船バレー大会を企画し、その場で他のスポーツも紹介する。
- ⑧障害者スポーツに関わる機会が少ないと思われる健常者の人々に「関わる・見る」機会を増やす。
- ⑨国体と全スポの壮行会、報告会を合同で行う。

健常者スポーツ  
との連携

(3) 障害者のスポーツ活動支援者の養成について

- ①作業所等、障害者にかかわる仕事に就いている人で、専門種目をもつ人の掘り起こしをする。
- ②特別支援学校の先生はもとより、スポーツ推進委員や地域総合型スポーツクラブのスタッフの方々が指導員資格を取得していただくことが必要。
- ③障害者スポーツ指導員が各地域の総合型地域スポーツクラブと共に活動する場として、障害者スポーツ教室を展開する。
- ④障害者スポーツ指導員の活躍できる場が少ないので、支援・協力できる場の提供を行う。
- ⑤各種研修会で、障害者スポーツの指導や障害についてのメニューを入れる。

指導者の  
養成・確保

- ①県民に聴覚障害者との交流をきっかけに手話に興味をもってもらい、手話サークル等に関わる方を増やす取組が必要。(県聴覚障害者福祉協会の活動との連携)
- ②伴走教室の開催。(日本盲人マラソン協会からの講師派遣など)
- ③各大学サークル等と緊密に連携し、協力をお願いする。
- ④視覚障害者に対する同行援護従業者(付添)の養成。

サポーターや  
ボランティア  
の養成・確保

## 2 開催準備活動

### (1) 国体との一体的な取組について

- ①国体と全スポのボランティアを一体的に募集・養成する。
- ②国体・全スポに向け、県内ボランティア組織を県で統括し、情報提供や協力依頼できるネットワークをつくる。(県内各種イベント等でボランティア慣れしてもらう。)
- ③障害者ができる限り運営に関わる場面をつくる。(試合入場の際の誘導役や、表彰式のメダル贈与時の記念品等の贈呈役を障害者が担う等)国体と全スポのボランティアを一体的に募集・養成する。
- ④審判の方々にも全スポを視野に入れていただく必要がある。

ボランティア  
・審判員の養成

- ①キャラバン隊を組んで県下を回る。
- ②障害者スポーツ体験ブースを作って、県民の方々にアピールする。
- ③障害者スポーツに関する取組の情報を県民にわかりやすく示していく必要がある。(再掲)
- ④広報・啓発の際、情報保障に配慮する。(点字、音声、字幕)
- ⑤「国体・全スポ体操(ダンス)」を作成し、テレビ(BBC)で放送する。
- ⑥企業等に公式サポーターを募り、その会社のテレビコマーシャルに「2024 滋賀国体・全国障害者スポーツ大会開催を応援しています」と入れる。
- ⑦NHK, BBCなどに、選手の活動を取材していただく。
- ⑧テレビ、新聞、SNSなどのメディア媒体を有効活用し、魅力的に発信する。キャラバン隊を組んで県下を回る。

広報

- ①養護学校、作業所等における花の栽培。
- ②都道府県別に応援団を設定し、各種目に応援団を練り出すとともに交流する機会をつくる。

県民運動

### (2) 運営面での工夫について

- ①開会式や閉会式での待ち時間が長くなるので、工夫が必要。
- ②国体開催中に障害者スポーツを見てもらう機会を創出する。
- ③情報保障に配慮する。(点字、音声、字幕)

式典

- ①重度障害者も参加できる種目の工夫。
- ②滋賀ならではの水上スポーツの実施。
- ③地元の子供が選手と手をつないで試合に入場。
- ④情報保障に配慮する。(点字、音声、字幕)(再掲)

競技会

- ①県民が高く関心を持ち、自然におもてなしと寄り添いの心で向かえ送り出せるように戦略的に進める。(総合プロデューサーを据えて一体的に取り組む)
- ②メダルや参加章にアールブリュットや信楽焼などを活用する。

おもてなし

- ①障害者トイレの設置は、多ければ多いほどよい。
- ②点字ブロックや誘導マットの敷設など、会場のバリアフリーについては、当事者の意見が反映できる機会をつくる。

施設・設備

### 3 その他

- ①一時的なイベントで終わるのではなく、無理をせずに長く続けられる取組を目指す。
- ②全スポ後もその会場、その施設ではその競技がメインとなつてできるような環境づくりをしていく。
- ③障害者スポーツを「福祉」から「スポーツ」にすることが「滋賀県らしさ」になるのではないか。
- ④おもてなしの精神を表現する。(来県時の歓迎、有名人のパフォーマンスなど)
- ⑤サポートする者がいかに活動しやすいか否かが、選手の動きやすさにもつながる。

開催基本構想策定に向けたスケジュール

開催準備委員会		県	競技力向上対策本部
総務企画 専門委員会	全国障害者スポーツ大会 専門委員会	スポーツ推進 審議会	障害者スポーツ 専門委員会
◆競技会場地選定案 ◆開催基本構想案	◆全スポ競技運営 ◆その他全スポに関すること	◆第2期スポーツ推進計画 の策定	◆障害者スポーツの競技力 向上に関すること
平成 28 年度	<p>【第2回】 滋賀らしい大会に向けた 取組の検討①</p> <p>【第3回】 滋賀らしい大会に向けた 取組の検討②</p>	<p>【H28年度第2回】 方向性の検討</p> <p>【H28年度第3回】 計画骨子（章立て） の検討①</p>	競技力向上推進計画の改定
平成 29 年度	<p>【第7回】 会場地選定第三次内定 （案）②</p> <p>【第8回】 開催基本構想策定の進め方 会場地選定第四次内定 （案）①</p> <p>【第9回】 開催基本構想（構成案） 会場地選定第四次内定 （案）②</p>	<p>【H29年度第1回】 計画骨子（章立て） の検討②</p> <p>【H29年度第2回】 答申（案）の検討</p> <p>【H29年度第3回】 答申まとめ</p> <p>審議会答申</p>	<p>【H29年度第1回】 各事業の中間報告</p> <p>【H29年度第2回】 次年度実施計画の検討</p>
平成 30 年度	<p>【第10回】 開催基本構想（原案） 会場地選定第四次内定 （案）③</p> <p>開催基本構想パブコメ</p> <p>【第11回】 開催基本構想（案）</p>	<p>【第6回】 開催基本構想の原案報告</p>	
平成 31 年度	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>【第7回総会常任委員会】 開催基本構想策定</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>開催申請書の提出（開催5年前の6/1～6/30）</p> </div>		



# 2024 滋賀国体・全国障害者スポーツ大会

## ～ 開催に向けた平成29年度の主な取組 ～

### 国体・全スポ開催準備委員会

負担金 28,300千円

#### (1)各競技会場の選定

- ◆正式競技・特別競技については、平成29年3月および6月(予定)開催の「総務企画専門委員会」において第3次内定案を決定のうえ、7月下旬開催予定の「常任委員会」に諮り決定。
- ◆平成30年に実施予定の中央競技団体正規視察までに、すべての競技会場を内定できるよう調整を継続。
- ◆公開競技や全国障害者スポーツ大会正式競技の選定準備に着手。

#### (2)開催準備委員会における大会準備

##### ①「開催基本構想」の検討着手

- ◆「総務企画専門委員会」において、平成31年の大会開催内定に向け策定する「開催基本構想」の検討に着手。

##### ②競技役員等の養成

- ◆平成27年8月に決定した「競技役員等養成基本計画」に基づき、審判員等の資格が必要な役員等の養成を行う競技団体に対し補助金を交付。

##### ③宿泊・衛生/輸送・交通にかかる検討着手

- ◆「宿泊・衛生専門委員会」と「輸送・交通専門委員会」を設置し、大会開催時の配宿計画や衛生対策、輸送計画や交通規制等の検討に着手。

##### ④全国障害者スポーツ大会の準備

- ◆「全国障害者スポーツ大会専門委員会」において、国体・全スポの一体感ある開催に向けた具体的方策を検討するとともに、会場の選定に向けて議論。

#### (3)開催機運醸成に向けた取組

##### ①国体・全スポマスコットキャラクターの決定・大会専用HPの開設

- ◆平成28年度から選定作業を進めているマスコットキャラクター(キャプティフー+関連キャラクター)の決定を行い、キャラクターを活用した大会広報・啓発を实践。
- ◆大会専用ホームページを開設し、インターネットを通じ効果的に情報を発信。

##### ②募金活動の展開

- ◆寄附を通じて「滋賀のスポーツを応援」いただけるよう、県民・企業の皆さんに対して積極的に呼びかけを実施。
- ◆いただいた寄附金は、当面「滋賀県競技力向上対策本部」で実施する、スポーツ選手の発掘、育成および強化に要する経費や、(仮称)彦根総合運動公園・新県立体育館などの施設整備に要する経費に充当。

##### ③子ども・若者参画特別委員会(ジュニア・ユースチーム第4期)活動の展開

- ◆他県にはない『滋賀オリジナル』の取組として、小学生～大学生世代の子どもや若者で構成する「ジュニア・ユースチーム」が、その柔軟な視点や発想を活かし、国体・全スポはもとより、広く県のスポーツ振興に関する課題等について調査研究を実施。

## 滋 賀 県

### 市町競技施設整備費補助の開始

100,000千円

- ◆競技会場となる市町立施設の整備に要する経費に対する補助を開始。

### 基金の積立て 等

26,044千円

- ◆「国民体育大会・全国障害者スポーツ大会運営等基金」に、企業や県民の皆さんからいただいた寄附金を積立てるとともに、一部を取り崩し、平成29年度に実施する競技力向上対策事業に充当。(H29年2月末残高:約3,591百万円、H29年度事業充当 230千円)